

夜尿と昼間尿失禁

夜尿症とは

「5才を過ぎても月1回以上、夜に尿が漏れることが3か月続く状態」を夜尿と言います。年齢が増すにつれて自然治癒もしますが、1年に10%程度。つまりクラスに10人いても年に1名ずつ治る程度であり自然治癒には時間がかかります。それを待つ親子にとっては長い時間となります。治療に関しては小児科へご相談してみてください。特に、おむつが外れた後に夜尿が無い時期が6か月以上経過してからの夜尿は二次性夜尿といって何か別の病気が隠れていることもあるので早期に受診しましょう。

また、昼の尿漏れを伴う時も同様です。

夜尿の受診をすすめる目的は？

①夜尿症はどのような病気かを聞く、②隠れた病気が無いかチェックする、③治療に関し相談する。

夜尿があると何が困るのか

夜尿がある児は自分に自信を持てなくなり、また両親の喧嘩やいじめと同様の精神的ストレスを受けた状態にあると言われています。治療により親子の負担が軽減できれば良いと考えています。治療はまずは現在困っている事がないか話を聞き、次に飲水や食事や排尿排便指導などを行います。その後、夜間尿量を減らすデスマプレシン又は膀胱容量を増すアラーム療法、膀胱の動きを調整する抗コリン剤などの組み合わせが主な治療です。

昼間尿失禁の受診時期

小児の昼間のおもらしは5才までになくなる人が多いと言われています、多少の個人差はあるとはいえ小学校に入学して昼間に尿漏れが多いと精神的負担も大きくなるでしょう。検査や治療にも時間がかかるため小学校入学前の受診が良いでしょう。

パンツに少し付くだけのものからズボンやスカートの着替えが必要な程度まで悩みは様々であると思います。Dry time といってパンツが濡れていない乾いた時間があるのか、常時漏れている状態であるかなどチェックして小児科に相談ください。

昼間尿失禁の原因

精神的に不安定で一時的なものもありますが、尿量が多くなる病気や膀胱の動きに異常をきたす様々な病気も考えられます。

昼間尿失禁の治療は原因の病気により様々です、検査や治療に時間がかかることが多いのでまずは相談ください。